洪水・土砂災害に備えて

最近、全国的に大雨や台風による洪水・土砂災害が多発しています。
洪水・土砂災害に対する知識・情報を得て、災害発生に備えましょう。

洪水・土砂災害に備えて

気象情報に注意する



テレビやラジオの気象情報に注意し、最新の情報を手に入れましょう。

家の周りを点検する



屋根やアンテナなど、日常から点検や補強をしましょう。

危険なものは片付ける



家の周りで飛ばされる恐れがあるものは、室内へ入れましょう。

排水路・側溝を確認する



排水路や側溝にゴミが詰まっていないか確認しましょう

川や水路に近づかない



急な増水やはん濫する場合があるので、川や水路に近づかないようにしましょう。

洪水・土砂災害が発生したら

2人以上で行動



避難はなるべく集団で行動しましょう。また、子どもからは目を離さないようにしましょう。

助け合って避難を



お年寄りへの声掛けや病気の人などの早めの避難など、近所の人たちと協力し合いましょう。

安全な避難



浸水があった場合は、側溝や水路への落下、流木などによるけがに注意しましょう。

避難が遅れたら



浸水時の移動は危険です。近くの丈夫な建物の2階以上(高所)に避難し救助を待ちましょう。

雨量(1時間)の強さと危険度

やや強い雨
10～20mm

ザーザーと降り、地面一面に水たまりができる。

長く続くときは、注意が必要。



強い雨
20～30mm

どしゃ降りで、傘をさしていてもぬれてしまう。ワイパーを速くしても見づらい。

側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まります。



激しい雨
30～50mm

バケツをひっくり返したような雨。

道路が川のようになり、山崩れや崖崩れが発生しやすくなります。



非常に激しい雨
50～80mm

滝のように降り、傘が全く役に立たなく、視界が悪くなる。車の運転は危険。

マンホールから水が噴出したり、土石流などの災害が発生する可能性が高くなります。



猛烈な雨
80mm以上

息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。

雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。



風の強さと危険度

やや強い風
風速10～15m/s

人への影響

風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。

危険性

樹木全体や電線が揺れ始めます。

強い風
風速15～20m/s

人への影響

風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。

危険性

電線が鳴り始め、看板やトタン板が外れるおそれがあります。

非常に強い風
風速２０～３０m/s

人への影響

何かにつかまっていないと立っていられない。飛来物によって負傷するおそれがある。

危険性

細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始めます。
看板の落下・飛散や道路標識が傾く場合があります。

猛烈な風
風速30m/s以上

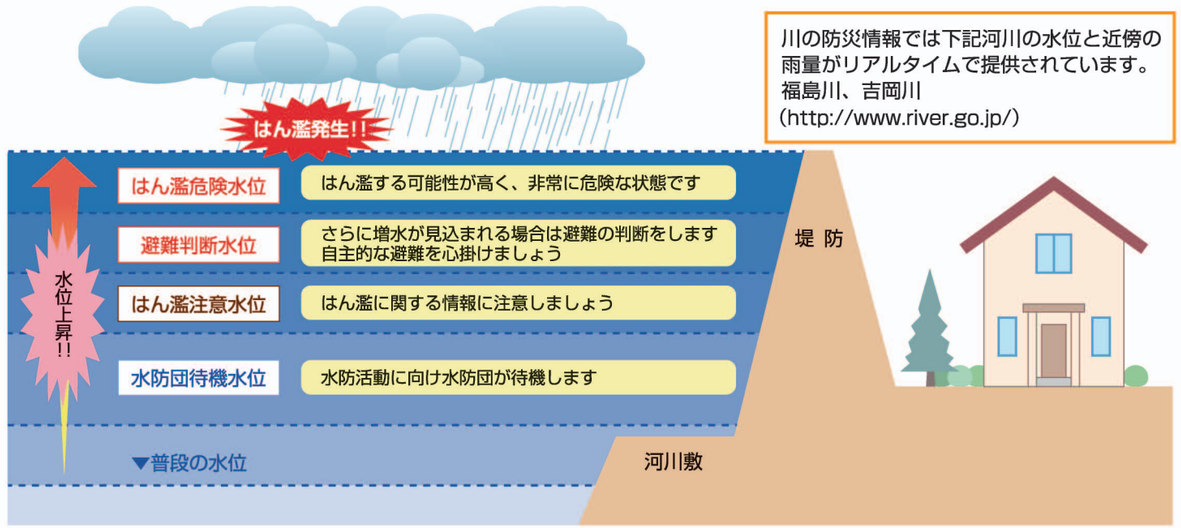
人への影響

屋外での行動は極めて危険。

危険性

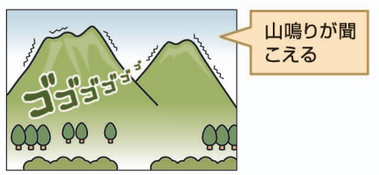
多くの樹木が倒れ、電柱や街灯も倒れるものがあります。
ブロック壁で崩壊するものもあります。

河川の水位と状況

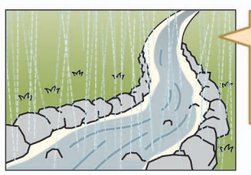


川の防災情報では下記河川の水位と近傍の雨量がリアルタイムで提供されています。
福島川、吉岡川
(http://www.river.go.jp/)

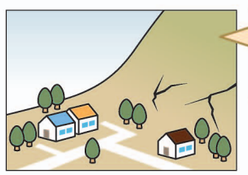
土砂災害の前兆



山鳴りが聞こえる



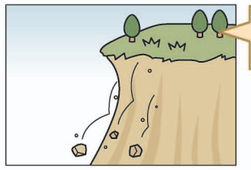
雨が降り続いているのに川の水位が下がる



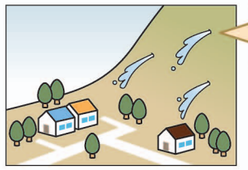
地面にひび割れができる



川の水が急に濁り流木が流れてくる



小石が落ちてくる



斜面から水が噴き出す

土砂災害の種類

土石流



斜面にたまった多量の石や土砂が、大雨などの時に一気に流れ下る現象。

地すべり



比較的なだらかな斜面で起きやすく、大雨などによる地下水の影響で斜面の一部もしくは全体がゆっくり滑り落ちる現象。

がけ崩れ



大雨などによる地中にしみ込んだ水で土の抵抗力が弱まり、がけや斜面が突然崩れ落ちる現象。

■防災メモ⑤

浸水時の歩行について

水の中を安全に移動が出来るのは、成人男性の場合、流れの速さがある程度ゆっくり(1秒間に1m程度の早さ)であれば、水深がひざ程度(40cm程度)ぐらいまでということが、実験で分かりました。
また水は低い方向に流れて溜まるため、水の流れと一緒に歩行すると、水深が徐々に深くなり、最終的には身動きがとれなくなる恐れがあります。避難する際など、どうしても浸水箇所を歩行しなければいけない場合は、棒などを杖にして前方を確かめながら歩行するなど、慎重に行動することが必要となります。